

重点取組校での実践

山口市立二島小学校

山口市南部に位置し、全校児童 57 名、7 学級の小規模校。「かしこく・やさしく・たくましく・つながる」を「目指す児童像」として、日々の教育に取り組む。学校司書は、週 2 日 6 時間勤務。学校図書館の蔵書冊数は、約 8,100 冊。「ライぶらり」実践対象は第 2 学年 5 人、第 3 学年 11 人の合計 16 人。2 学年合同で 5 回実施。11 月 13 日(水)子どもの本専門店主宰の横山眞佐子氏による読書講演会を全校児童対象に実施。



日時	実践内容	児童の様子
6/27 (木) 45分	<p>「借りたい本 1 冊と、そこから遠くの棚の本 1 冊を選び、グループ内で題名を紹介しよう」</p> <p>「ライぶらり」の名前の由来を知る。</p> <p>学校司書と共に館内をぶらりぶらり。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内をぶらりぶらりはできるが、色々な本を手に取り、めくってみることをしない。背表紙を見るだけで選ぼうとしている。 ・選んだ本を借りなくてはいけないと思っているようで、選びにくそうだった。 ・遠慮して人の選んだ本を見ようとしなない。
7/11 (木) 45分	<p>「借りたい本と、それとは異なる請求記号の本 1 冊を選び、グループ内で題名を紹介しよう」</p> <p>請求記号を知る。</p> <p>本を抜く、表紙を見る、本を開くことで、本を知ることができることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 冊の請求記号が同じだと気づき、選びなおす子がいた。 ・本を抜いて見ようとするが、倒れて抜きにくかったり戻しにくかったりした。 ・人の選んだ本も手に取るようになってきた。
9/26 (木) 45分	 <p>「写真がいっぱいで、おもしろそうな本をさがそう」</p> <p>写真の多い本を山口図書館から持参して紹介。</p> <p>請求記号に着目しながら、異なる請求記号の本を 2 冊選び、グループ内で題名を紹介。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った本を探すために、本を手に取りめくることをすすんで実行していた。 ・選んだ本を借りる子どもが増えてきた。 
10/24 (木) 45分	<p>「選んだ理由を話そう」</p> <p>請求記号に着目しながら、異なる請求記号の本を 2 冊選ぶ。</p> <p>グループ内で、選んだ本の題名と、選んだ理由を紹介。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ理由を話すことに抵抗なく取り組める。  <ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介後は夢中で本を読んでいた。
11/21 (木) 45分	 <p>「選んだ本を展示しよう」</p> <p>グループ内で、選んだ本の題名と、選んだ理由を紹介。</p> <p>展示したい本を展示。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学年の子に選んだ本を知らせることができるということで、意欲的に取り組むことができた。 ・本選びがスムーズにできるようになり、本紹介までに時間の余裕ができたので、選んだ本を熱心に読む様子が見られるようになった。 ・友達が選んだ本に興味を持ち、その本の配架場所を教えてもらう子がいた。

担当教員の声



学校司書
大前 伸子

来館しても、いつも同じ書架からしか本を選んでいなかった子どもが、ライぶらりを実施してからは、請求記号を確認して本を選んだり、図書館全体を見て本を選んだりするようになってきました。



2 年担任
阿部 明音

手に取ってみる本の数が増え、本棚の前に立つ時間も長くなりました。ライぶらりの回数を重ねる中で、請求記号の異なる棚から、自分が読みたい本を探せるようになってきました。



3 年担任
谷口 麻衣子

ライぶらりのおかげで、本が好きになったと声にする子が増えました。選んだ本を紹介する交流タイムを通し、友達に選んだ本にも興味をもつようになり、読書の幅が広がったように思います。

山口県立小野田高等学校

創立 135 年を迎える伝統ある進学校。全日制、定時制があり、全日制の生徒数 433 人、13 学級。「広げよ 可能性の地図 定めよ 羅針盤」をスローガンに掲げ、45 分 7 限授業を実施。学校図書館の蔵書冊数は約 16,300 冊。「ライぶらり」の授業を第 1 学年 4 学級のうち 1 学級の 35 人を対象に、5 回実施。また、全校生徒対象に『ヒマラヤに学校をつくる』（旬報社）の著者 吉岡大祐氏による読書講演会を 11 月 11 日（月）に実施。



日時	実践内容	生徒の声（アンケートより）
6/25 (火) 45 分	<p>「9 類以外の異なる分類から、3 冊程度面白そうな本を探そう」 自分が興味を引かれた本を気軽に選び、選んだ理由を紹介する活動であることを説明。自校の図書館の蔵書数、図書購入費等を確認。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> あまり図書室に行っていなかったが、探してみると良い本がいっぱいあった。 9 類ばかり読んでいたので、それ以外の本に注目することが出来てとても良かった。 他の人が選んだ本はとても興味があったし、友達の本選びの基準などが分かって楽しかった。 自由に本を選ぶ時間や、なぜ自分がこの本を選んだのかを話すのはとても楽しかった。
7/17 (水) 45 分	<p>「夏休みに読みたい本を 5 冊程度、異なる分類から探そう（新書を含めて）」 図書館中のスペースを利用して、表紙が見えるようブックスタンドを使ったり、平置きしたりして展示をし、選びやすとした。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 1 回目より面白そうな本を見つけることが出来たし、借りることもできた。以前は図書館に抵抗があったけど、前回実施してから、ずっと図書館に行けなくてうずうずしていた。 自分が読んだことのないジャンルも積極的に読んでみようと思った。 今、自分に必要な本を見つけることが出来た。図書館に通ってみようと思った。
9/10 (火) 45 分	<p>「全集や辞典、参考図書など、利用されてなさそうな本を開いてみよう」 開いた本の中から 1・2 冊を持ってきてグループで紹介。さらにグループ代表本をクラスで紹介。奥付の発行年を確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この図書室はすごく古い本から新しい本まであり、幅広いと思った。3 年間しか利用できないので、もっとたくさん本を読もうと思った。 「古い本見つけた！」とうれしくなった。暇なとき図書室に遊びに行って古い本を探すのもありだと思った。 図書館は歴史の宝庫だと思った。
10/9 (水) 45 分	<p>「自分の将来に役立ちそうな本を、異なる分類から 3 冊程度探そう」 山口図書館の本を 80 冊程度展示。初めにブックトークを実施。選んだ本を読む時間も取った。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 直接的に将来と関係する本よりも、生きていくための本がとても面白かった。色々な本を見て色々な考え方があったなと思った。 自分の将来の夢に関する本だけでなく、友達の夢に関する本に触れることができてよかった。 どんな本でも将来役に立つんだなあ。将来のためにたくさん本を読んでおいた方がいいと思った。
11/15 (金) 45 分	<p>「『1 年 3 組のちょっと気になる本』というテーマで、異なる分類から 3 冊程度探し、展示をしよう」 選んだ本を渡り廊下に展示。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 本を読むのが苦手な私にもお気に入りの本を見つけることができた。 渡り廊下に並べた本の中に何冊か気になる本を見つけた。 最初はあまり本に興味はなかったけど、最近図書館に行って本を読む機会が増えた。 これからは時間のある時はスマホばかりするのではなく、本を読んだり図書館に行ってみたりしたいと思った。

担当教員の声

高校生になると、学習課題や部活動などで忙しく、本を手取る時間を作り出せない生徒が増えてきます。そんな生徒たちに、なんとかして図書館に来てもらいたいと頭を悩ませていたところ、「ライぶらり」に出会いました。

「ライぶらり」の魅力は、シンプルですぐに誰でも取り組むことができるとともに、生徒の学年やその時々状況に応じて、様々な応用やアレンジができることです。また 1 回だけでなく、年間に複数回実

施することで、生徒の内面の成長も見ることができました。図書館で本を手取り、本を媒介として他者と対話をするという活動は、自己理解だけでなく、他者理解力、コミュニケーション力、情報収集力、探究力を身に付け、進路指導にもつなげることのできる大きな可能性のある活動であると実感しています。

図書館に来る生徒が増えました。生徒たちの手にとってもらえる本も増えました。生徒たちも、「先生、次の『ライぶらり』はいつ？」と楽しみにしています。



司書教諭
青池 のぞみ

下松市立久保中学校

下松市の東北部に位置し、生徒数 235 人、12 学級の中規模校。「心豊かでたくましく 生きる力を身につけた生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、「久保中ブランド（挨拶・清掃・学習規律）の向上」を目指す。学校図書館の蔵書冊数は約 10,200 冊。学校司書は、週 2 日 5 時間勤務。「ライぶらり」を第 2 学年 3 学級のうち 1 学級の 25 人を対象に、5 回実施。また、全校生徒対象に、『ヒマラヤに学校をつくる』（旬報社）の著者 吉岡大祐氏による読書講演会を 11 月 12 日（火）に実施。



日時	実践内容	生徒の声（アンケートより）
7/2 （火） 50 分	<p>「9 類以外の異なる分類から、3 冊程度面白そうな本を探そう」</p> <p>自分が興味を引かれた本を気軽に選び、選んだ理由を紹介する活動であることを説明。自校の図書館の蔵書数、図書購入費等を確認。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもは見向きもしない 9 類以外の所で面白そうな本を見つけることができた。 ・「こんな本があるんだ！」と思った。 ・今まで本を読まなかったけど、本を読みたい気持ちになった。 ・とても楽しかったし、もっと本について知りたいと思った。 ・今まで図書館で本と触れ合う時間がなかったけど、ちゃんと見ることで「こんなに面白い本があるんだ」と思った。
7/9 （火） 50 分	<p>「読書感想文によさそうな本を 3 冊程度、異なる分類から探そう」</p> <p>課題図書の本トークを行い、読書感想文の本選びのポイントをアドバイス。最後に、読書感想文の書き方の指導を簡単に行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回と違ったジャンルの本を見つけることができた。 ・私はノンフィクションの本が好きなんだと初めて気づいた。 ・前回と比べて自分の読んでみたい本がたくさん見つかった。 ・前は借りるまでいかなかったけど、今回は借りられたので良かった。 ・他の人が選んだ中に面白そうな本があったので、面白い本はどんどん他の人に紹介したいと思った。
9/20 （金） 10 分	<p>朝の読書の 10 分間で実施（8：20～8：30）</p> <p>「朝の読書用の本を探そう」</p> <p>5 分で本探し、20 秒ずつで理由を紹介、1 分程度交流、残り時間で元の場所へ返却または貸出。</p>	<p><ミニライぶらり></p> <p>慣れてきたら、10 分間の朝の読書の時間でも実施可能ではないかと考え実施した。生徒は、面白そうな本を見つけるのが早くなっており、5 分間で全員、1 冊は見つけることができていた。</p>
10/1 （火） 50 分	<p>「自分の将来に役立つような本を、異なる分類から 3 冊程度探そう」</p> <p>初めにブックトークを実施。出会ってほしい本を表紙を見せて展示。選んだ本を読む時間も取った。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来に役立つ本なんてないと思っていたけど、探し始めると気になる本がたくさんあって選ぶのに困った。 ・自分の将来についての本がこんなにいっぱいあることがわかってびっくりした。 ・色々な本を見て、もっといろんな仕事を知りたいと思った。 ・将来について学ぶ時は、図書館に来ればよいことがわかった。 ・友達は思ったより専門的なものを選んでる人が多かった。 ・私は、同じ系統の本ばかりなので、少しずつ自分の視野を広げていきたいと思った。
12/11 （水） 50 分	<p>「『2 年 3 組の選んだちょっと気になる本』というテーマで、異なる分類から 3 冊程度探し、展示をしよう」</p> <p>選んだ本を学校図書館の机の上に表紙を見せて展示。</p>  	

担当教員の声

学校図書館は、その学校に通っている人だけが利用できる特別な場所です。3 年間という限られた時間の中で、すべての生徒にたくさん学校図書館を利用してほしいという思いをもっている中で、この「ライぶらり」の活動と出会いました。

生徒は、回を重ねるうちに、本の内容について話をしたり、別の本を手にとって友人に勧めたりする姿が多くみられるようになり、見つけた本を紹介するときは、生き生きとうれしそうな表情をしてく

した。「自分の将来に必要な本も図書室にあったのか！」など新たな視点で、図書館を見た生徒も多くいたように感じました。最後の「ライぶらり」では、1・2・3 類の本棚に多くの生徒が集まっていたことが印象に残っています。

司書教諭として、学校図書館との出会い、本との出会いの機会を増やしていかなくてはならないと感じています。



司書教諭
廣實 英理香

児童・生徒の声

小学生の声

- ・いろいろな本をえらんだりみたりするとやっぱりおもしろい本があると思った。
- ・ライぶらりをしてから知らない本を知った。知らない本も読みたいと思った。
- ・ぶらりぶらりしてみたら、今まで見たこともない本があっておもしろかった。
- ・本のことがよくわかったし、学校図書館を利用したくなってきた。
- ・ライぶらりをやってから、本を読むのが好きになり、うれしかった。
- ・本を選ぶのが、宝探しのようだった。



中学生の声

- ・今まで本なんか全然読まなかったけど、読み始めたらすごくハマるので読書は楽しいと思った。
- ・自分が今まで見ようと思わなかった本まで見る事ができたので読書の幅が広がった。
- ・図書室を利用してこなかった僕でもじっくり本を選ぶ事ができたし、どういう本が好きなのか気づく事ができた。
- ・回数を重ねることで、本に対する意識も変わり、読書の幅が広がっていった。
- ・いろんな人と関わることができるのですごい。
- ・普段自分が読みそうもない本も、友達が紹介したら面白そうと感じ、自分の読書の幅が広がった。
- ・読書する時間が増え、家でも自主的に読むようになった。
- ・新しい本と出会い、新しい発見があった。
- ・どこにどんな本があるかがわかり、探しやすくなった。
- ・図書館に行くと自然とワクワクするようになった。
- ・学校や市の図書館に興味があった。
- ・学校図書館を利用する回数も増えた。



高校生の声

- ・好きな本を気軽に手に取ることで「面白そうだ」と関心を持つ事ができた。
- ・興味がある本を見つけた時、久しぶりに「読みたい」と思った。
- ・本を読まなくなっていたけど、図書館内を見て回っているうちに、面白そうな本を見つけて読む機会が増えた。
- ・思ったより色々なジャンルの本に触れる事ができた。
- ・本について友達同士で話し合うことがとても楽しかったので、本に興味があった。
- ・普段読まない本に触れ合えたり、本を通じてあまり話さない人とも話せて、交流の輪が広がった。
- ・自分の人生を豊かにしていくために、たくさんの本を読んでいこうと思った。
- ・堅苦しいイメージがなくなって、前より気軽に図書館に来ることができるようになった。
- ・図書館が身近な存在であることがわかった。
- ・これから公共図書館などを頻りに利用しようと思った。



「ライぶらり」を実施した教員・学校司書の声

- ・最初は戸惑っていたが、慣れると散歩気分楽しく本を選ぶ様子が見られた。
- ・本のページを開いて見せるなど司書が手本を示すことで、子供たちが気楽に取り組めた。
- ・自分の興味関心だけでなく、新しい本との出会いにより視野を広げることができた。
- ・自校の図書館の本について再確認できる良い機会である。
- ・読書が苦手な子でも積極的に取り組めるハードルの低さがよい。
- ・何の準備もせず実施でき、子供たちが自ら話そうとする姿が見られてよかった。多くの方に実践してほしい。
- ・正解や不正解がないので、どの子もびのび発言ができる。
- ・借りなくてもよいという前提なので、気軽に選べる。
- ・貸出し冊数はそんなに変わらなかったが、普段動きにくい1類と6類の貸出しが増えた。

問い合わせ先

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館内）

〒753-0083 山口市後河原 150-1
TEL: (083) 924-2111 FAX: (083) 932-2817
Eメール: a50401@pref.yamaguchi.lg.jp